

## 地方創生関連交付金に係る事業実施結果報告

### 1. 事業の名称・実績額等

①交付金対象事業の名称	学校跡地を活用した次世代農業モデルプラント事業の事業自立支援と就農人材育成		
②交付金の種類	地方創生加速化交付金	③実績額	25,562,475 円 (うち交付金 25,562,475 円)

### 2. 重要業績評価指標（目標値と実績値）

④当該事業における重要業績評価指標（KPI）				⑤事業終了時点における実績値
指標		目標値	目標年月	
指標 1	当モデルプラント事業により新たに創出される雇用者数	4 人	H29.3	→ 8 人 0 千円（※1） のべ 309 人
指標 2	当該モデルプラント群による生産物等年間売上	14,000 千円	H29.3	
指標 3	就農人材等育成・研修事業等への参加者（佐用高校農業科学科等との連携分含む）	のべ 300 人	H29.3	

※1 プラント完成時期について、当交付金申請書作成時（平成 28 年 2 月）に計画していた時期から変更になったため、平成 28 年度内にはトマトを収穫できなかったことによります。

### 3. 事業の目的、内容、事業の実施結果、今後の方針等

#### 【事業全体としての背景・目的等】

本事業は、ハイテク技術を活用した次世代農業モデルプラント「佐用まなび舎農園」による新たな農業の創出を、民間事業者と佐用町が共同で設立した有限責任事業組合で行い、付加価値を高めて儲かる農業を実践し、雇用の創出と新規就農者の増大、ひいては関連産業の振興や定住人口の増加につなげていこうとして実施したものです。本交付金により、農園のうちの 1 棟を研修・栽培実験棟として位置付け、町立土づくりセンターで生産された堆肥での栽培実験・検証を行うとともに、町内唯一の高等学校である佐用高校農業科学科とも連携し、生徒への技術指導や実習の場・就農希望者の研修等にも活用を行い、将来の担い手づくりにも寄与させていきます。さらに、将来的に補助金等に頼らず、自立して事業継続・拡大や町内での事業展開を加速化していくため、生産作物の高付加価値開発・販売先の確保・加工品の研究開発等の取組に対する事業自立支援を行うとともに、生産作物のブランド戦略の展開を支援しました。また、町の農産物生産基盤を強化し、就農・帰農の機運を醸成するため、農業振興会が開催する就農人材等育成・研修（佐用いきいき帰農塾）を支援しました。

#### 【事業の内容、実施結果、今後の方針等】

##### ○就農人材等育成・研修（佐用いきいき帰農塾の開催を支援）

就農・帰農の機運を醸成して町の農産物生産基盤を強化するとともに、町内販売拠点施設等における地域生産物等の出品を促進するため、農業振興会が開催する就農人材等育成・研修（佐用いきいき帰農塾）を支援しました。

◇野菜コース 5/16～11/19 計9回実施 のべ127名参加

◇果樹コース 5/9～3/24 計12回実施 のべ116名参加  
両コースとも募集人数を超える参加希望者があり、農業への関心の高さをうかがい知ることができました。

高齢化による離農が進むなか、農業初心者などを対象に野菜と果樹の基本的な栽培技術を習得させ、継続的に生産者の掘り起こしを行う必要があるため、平成29年度においても地方創生推進交付金の対象事業として継続実施中です。



(佐用いきいき帰農塾)

### ○佐用高校等研修・実習事業

佐用まなび舎農園のうちの1棟を研修・栽培実験棟として位置付け、平成29年度から佐用高校と連携して生徒等への技術指導の場や実習の場としての活用を行うため、農園完成に先行して次世代農業プラントにおける研修・実習事業、佐用高校における講義を実施しました。

◇次世代農業プラント IDEC 福崎植物工場ラボにおける研修と栽培実習 (平成28年10月13日)

対象者：佐用高校農業科学科3年生18名(栽培専攻)、  
教諭等5名参加

テーマ：次世代農業とは

講義：施設園芸の現状と将来、次世代農業プラントにおける農法と環境制御技術

実習：環境制御装置の実演、栽培作業体験(わき芽取り・誘引作業)



(佐用高校等研修・実習事業)

◇佐用高校で「農業のビジネス化」をテーマに講義 (平成29年2月8日)

対象者：佐用高校農業科学科2年生36名、教諭等7名参加

テーマ：農業のビジネス化(マーケティング・経営・6次産業化など)

この研修・実習事業を通じて、佐用高等学校の魅力化に資するとともに、新しい農業のあり方に興味を抱き、ビジネス意識を持った儲かる農業の実践に従事する若者が増加し、佐用町の農業の未来を切り開いていく契機となればと考えています。なお、平成29年度においても、地方創生推進交付金の対象事業として佐用まなび舎農園において継続実施中です。

### ○生産作物研究・開発事業

町立土づくりセンターで生産された堆肥「あさぎりスーパーコンポ」を佐用まなび舎農園での栽培等に活用していくため、栽培上の課題や使用上の特徴を検討することを目的に、次世代農業プラント IDEC 福崎植物工場ラボにおいて作物栽培実験・検証等を行いました。具体的には「あさぎりスーパーコンポ」の特性に近い市販の堆肥を比較堆肥として選定し、イチゴの収量や糖度・栽培状況等を分析しました。この検証から、栽培上の課題や使用上の注意点を把握することができました。



(生産作物栽培実験・検証)

また、市販の堆肥と比較した結果は、平均糖度についてはあまり差がなかったものの、収量は多く、果実成分に関してもビタミンCが多く含まれており、糖酸比が高いので食感がよいという結果がでています。現在、佐用まなび舎農園においても土づくり等において「あさぎりスーパーコンポ」を使用していますが、今後も佐用町産堆肥のさらなる活用を図っていきたいと考えています。

### ○研修・栽培実験棟建設費補助

次世代農業モデルプラント「佐用まなび舎農園」のうちの1棟を研修・栽培実験棟として位置付け、その建設費を補助したものです。旧三土中学校の跡地を活用して建設した佐用まなび舎農園は平成29年1月下旬に完成し、3月23日には完成披露式を行いました。現在、ブランドトマト「夢茜」（品種名：フルティカ）と、そのトマトを原料としたストレートトマトジュースを製造・販売し、その品質・美味しさに好評を得ているところです。主な販売先は、近畿圏の大丸百貨店・阪急百貨店・いかりスーパー等となっており、佐用町内では道の駅宿場町ひらふく、南光ひまわり館（ジュースのギフトセットのみ）で取り扱っていただいています。現在はちょうど苗の植え替え時期となっていますが、秋からの本格収穫期を前に、さらなる安定生産・販路の確保・事業の自立運営に向けて努力を重ねているところです。



(完成した次世代農業モデルプラント「佐用まなび舎農園」)

### ○加工・販売支援事業

佐用まなび舎農園にて生産される生産作物や加工品の販売促進・事業自立支援のため、佐用ならではの特徴と消費者ニーズを踏まえた加工・販売戦略の構築、販売促進活動、販路開拓等を支援しました。

- ◇ブランディングの検討（事業ブランド、農場ブランド、商品ブランド）
- ◇販売戦略の検討とプロモーション支援（販売戦略の検討、マルシェ等の出展支援、商談会（アグリフードエキスポ等）の出展支援など）
- ◇商品等のデザイン・PR ツールの作成（商品のデザイン検討・決定・作成、農園リーフレットの作成、Web ページの作成、生産物の特徴分析など）



(商品デザイン・ロゴ・パッケージ等の一例)

ブランドトマト「夢茜」とストレートトマトジュースについて、その品質・美味しさには概ね良好な評価を頂いていますが、定植から収穫という1サイクルを経験したことによって、安定的な農園の運営・販路の確保・流通面等において改善すべき点も見えてきました。今秋からの2サイクル目の本格収穫期を前に、さらなる安定生産・販路の確保・事業の自立運営に向けて努力を重ねているところです。



(Umekiki マルシェ)



(アグリフードエキスポ)